

C-19 編物割出数表について (第2報)

宮崎大学 北村 斉子

最近毛糸編物機の発達にともなって、編物作製時間はいちぢるしく短縮されてきた。しかし割出計算には加減乗除の計算は勿論の事、曲線を割出す場合にはグラフ等を使用し、目数を定めたりするので多くの時間を要する現状である。この割出計算の時間を短縮するために、ゲージ早見表、直線及び曲線をも割出す数表を作製した。なほ作製した数表を使った場合と、計算の場合との時間の測定をセーター及びカーデガンの二種について行い、数表の有効性の一部をしらべて見た結果についての報告である。